

徳之島事務所（令和8年1月分）管内情勢

農林水産業関連

1 ピタヤの栽培管理技術習得に向けて支援

12月23日に伊仙町にて、ピタヤの幼木栽培講習会を開催し、生産者・関係者計14人が参加した。

講習会では、かん水の必要性や排水対策、鳥害対策、施肥管理、病虫害防除などについて説明するとともに、着果を促す葉状茎の誘引やせん定方法などの実演を行った。

今回は、今年度に栽培を開始した新規栽培者や今春に栽培を開始する新規栽培予定者も参加した。

当課では今後もピタヤの栽培管理技術の習得及び栽培面積拡大に向けて支援していく。



2 ハカマの粗飼料利用，今年度は回収者が増え，徐々に波及

12月23日に、さとうきび収穫残さであるハカマを牛へ直接給与利用するエコハカマ回収利用組織が天城町で稼働した。

エコハカマの回収利用組織は、昨年から取り組んでいる伊仙町の組織と合わせて2組織となり、さらに天城町で1組織が結成予定である。また、徳之島町のハカマロール回収組織と合わせると4組織となり、ハカマの回収利用は徐々に拡大している。

当課では、島内資源の粗飼料利用をさらに進め、冬期の粗飼料不足解消を図ると共に、コスト低減



に向けた支援を継続する。

3 かぼちやの産地の維持・拡大に向けて

12月22日に農業開発総合センター徳之島支場にて、抑制かぼちや出荷協議会及び早熟かぼちや栽培研修会が開催され、生産者・関係者計25人が参加した。

会では、抑制かぼちやの適期収穫に向け、収穫前の試し切りの実施を呼びかけた。また、早熟かぼちやの発芽率が低いことが問題となっていることから、適切な播種方法を周知した。近年は、新たな生産者も増えてきており、引き続き、基本技術の実践を支援する。

4 えだまめの生産性向上に向けて

1月16日に徳之島町にて、えだまめ栽培講習会が開催され、生産者・関係者計8人が参加した。

えだまめの収量を確保するためには、出芽揃い、生育揃いが重要となる。そのため、講習会では、播種時の注意点、かん水方法及び温度管理方法を重点的に周知した。また、近年は、収穫遅れによる過熟莢発生が問題となっていたため、計画的な作付と併せて適期収穫を呼びかけた。島内の生産者数は減少しているが、栽培に取り組む生産者を今後も支援する。

5 落花生「おおまさりネオ」は、ばれいしょの掘取機で収穫できる！？

落花生はばれいしょの裏作で栽培可能な品目であり、関係機関一体となって、誰もが栽培に取り組みやすい体系の構築に向けた検討を進めている。その一環として、12月23日に伊仙町農業支援センターのほ場にて、ばれいしょ掘取機を活用した収穫作業の実演・検討会が開催され、生産者及び関係者計39人が参加した。

供試品種の「おおまさりネオ」



は ，草姿がコンパクトであったことから，実用可能な結果となった。参加者からの評価も非常に良く，今後の普及拡大に期待が持てる検討会となった。

6 継続した啓発活動により，ばれいしょ「しまあかり」普及に向けて万全を期す

1月7～8日に徳之島町，天城町，伊仙町のほ場にて，「しまあかり」現地検討会が開催され，生産者・関係者計92人が参加した。

会では，ほ場主による現在の生育状況や栽培の留意点などの説明に対し，質疑応答が交わされるなど生産者の意欲向上が垣間見えた。

本年産における本品種の生産者は39人にのぼり，本格的な普及が始まっている。園振協徳之島支部では，より多くの生産者が本品種に触れられるよう，全生産者のほ場に啓発用のぼり旗を立てている。

現地検討会での啓発と併せて，さらなる理解の向上が期待される。



7 メロン青年勉強会組織が1年目の活動を終える

天城町の研修施設卒業生を中心に，令和7年3月から会員8人で本格始動したメロン青年勉強会組織は，座学9回，現地検討会3回の計12回の研修を実施し，12月19日の第12回勉強会及び反省会をもって1年目の活動を終了した。会員からは，「互いのほ場の行き来や意見交換の機会が格段に増えた」「初めて知ったことが多く勉強になった」などの声が聞かれるな



ど好評で、来年も活動を継続していくこととなった。